2019年6月15日　開催

第51回　病気の勉強会

本日のテーマ

麻疹(はしか)と風疹

医療法人 志成会
のざき内科・循環器科クリニック

院長　野﨑俊光

本日の内容

TODAY'S PRESENTATION

- ◆麻疹（はしか）
- ◆風疹
- ◆現在の麻疹と風疹の現状
- ◆麻疹・風疹ワクチンについて
- ◆まとめ

麻疹（はしか）

原因

麻疹ウイルスの空気感染により生じる急性熱性発疹性疾患

- 潜伏期間：　10-12日
- 感染力　：　最強クラス

麻疹（はしか）

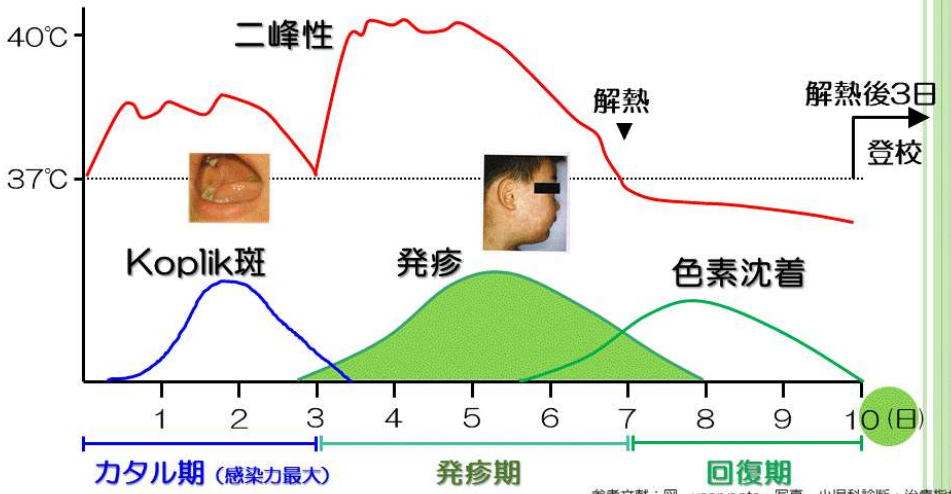
臨床経過

- 感染後10-14日に38℃以上の発熱、咳、鼻汁、結膜充血、目やに、咽頭痛などの症状が出現し（カタル期）、次第に増悪する。
- 発熱3日目頃から口腔粘膜にKoplik斑（ｺﾌﾟﾘｯｸ斑）が出現し、一時的に発熱は軽減する。
- しかし、再度急激に上昇し（二峰性発熱）、40℃前後の高熱になる。再熱発と同時に発疹が出現する（発疹期）。発疹は顔面から始まり胸腹部・背部・手足に拡大する。
- 発疹が4～5日続いた後に消退し始め、ようやく解熱傾向となる（回復期）。

参考文献：year note、小児科診断・治療指針

麻疹（はしか）

臨床経過



参考文献：図　year note、写真　小児科診断・治療指針

麻疹（はしか）

発疹の特徴

- 発疹は顔面から始まり胸腹部・背部・手足に拡大する。
- 発疹は初期は孤立性の小発赤疹で次第に癒合するが、健康皮膚面を残す。
- 発疹が4～5日続いた後に消退し始め、色素沈着を残して消失する。

参考文献：図　小児科診断・治療指針

麻疹（はしか）

臨床像

- 生後6ヵ月頃までは母体からの受動免疫により罹患しない。
- ワクチン接種後の免疫が不十分に残存している時期の感染・発症は軽症に経過する（修飾麻疹）。

合併症

- 中耳炎（最多）、**肺炎**、**脳炎**、細胞性免疫の一時低下（1カ月間は免疫機能低下状態が続く）

治療法　：対症療法

麻疹患者との接触後72時間以内であれば麻疹ワクチンを接種

風疹

原因

風疹ウイルスの飛沫感染により生じる急性発疹性疾患

- **潜伏期間：**　14-21日

風疹

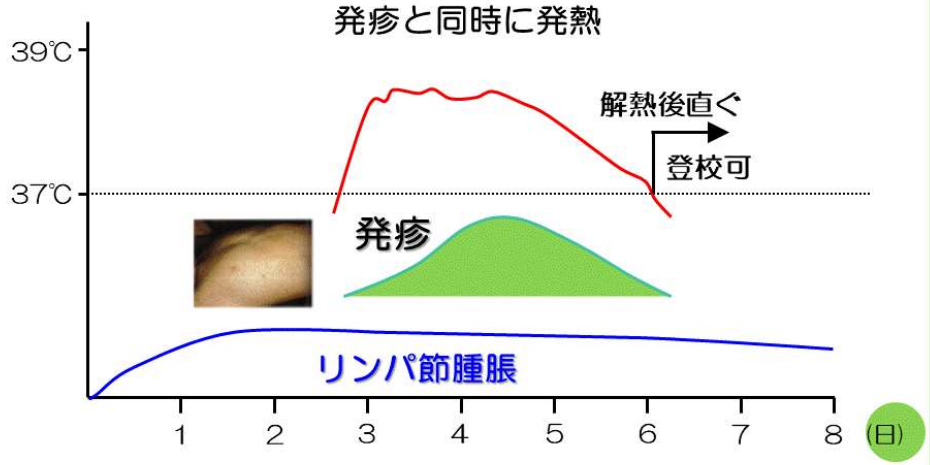
臨床経過

- 感染後14-21日に**発疹と発熱が同時に出現**する。発疹は径5mm程度の小発赤疹が癒合せずに顔面・頚部から始まり胸腹部・背部・手足に拡大する。
- 約3日間程度で色素沈着することなく発疹は消退する。
- 発疹に先行して耳後ろ、後頭部、頚部のリンパ節腫脹がみられる。

参考文献：写真　小児科診断・治療指針

風疹

臨床経過



参考文献：図　year note、写真　小児科診断・治療指針

風疹

合併症

- 手首や膝などの関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎、**先天性風疹症候群**など

治療法　：比較的軽症なので対症療法

安静、発熱・関節痛には鎮痛薬

先天性風疹症候群

- 妊娠20週までに母体が風疹に罹患すると、胎盤を通して胎児に感染する。
- その結果 **眼症状**（白内障・緑内障・網膜症）
  心疾患（肺動脈狭窄、動脈管開存）
  聴力障害（高度感音性難聴）
  中枢神経症状（小頭症、精神発達遅滞）
  などの先天異常（生まれつきの異常）をきたす。
- その他、低出生体重、肝脾腫、黄疸などを呈する。
- 妊娠初期の感染ほど先天性風疹症候群を発症する頻度が高く、症状も典型的となる。

今（R1年6月）の
麻疹の現状

日本の麻疹の現状

日本での最近の流行状況

- 2002年の流行では数万人が罹患し、年間約20～30人が死亡した。
- 2007年に10代、20代を中心とする流行が起こり、多数の高等学校や大学が休校措置を行うなどの社会的問題が生じた。
- 2008年には11,013例が麻疹として報告されたが、2009年には93%減少し、732例となった。
- 2015年の年間報告数は**最低**となる35例であった。

国立感染症研究所ホームページより

日本の麻疹の現状

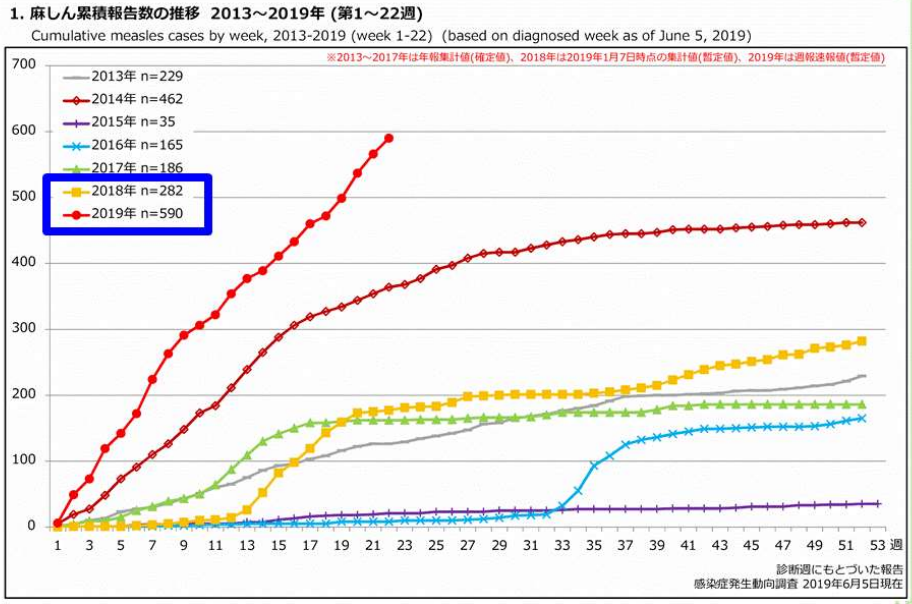
- わが国は、2015年3月に国際保健機構(WHO)から**麻疹排除状態**にあると認定された。つまり、日本土着の麻疹ウイルスがなくなった。
- しかし、わが国では近年、タイ、フィリピン、インドネシア等の東南アジア、イタリア等の欧州からの麻疹ウイルスの輸入が継続して報告されている。現在、**麻疹は輸入感染症**として存在している。

麻疹報告数

2016年： *165人*
2017年： *186人*
2018年： *282人*

国立感染症研究所ホームページより

近年の麻疹の報告数



愛知県の麻疹の報告数

愛知県衛生研究所ホームページより

昨年、沖縄から広がった麻疹

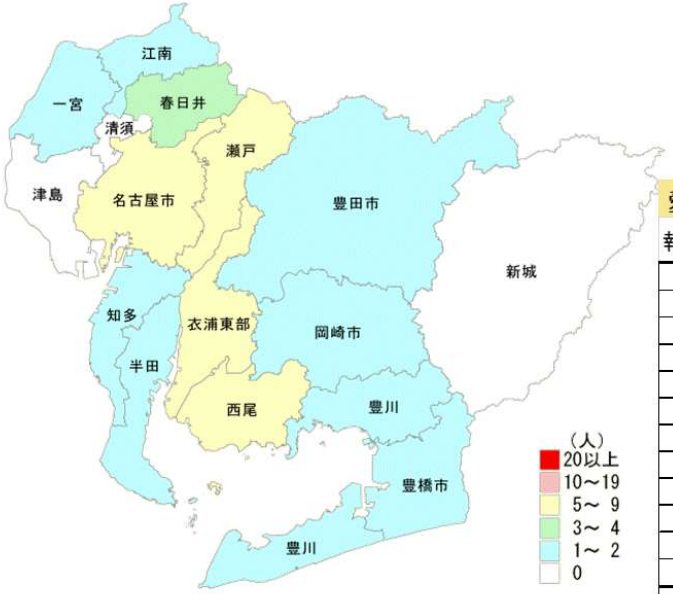
- 2018年3/20、沖縄県内で台湾からの旅行客の1人が麻しんと診断され、沖縄県内の広範囲から継続して麻しん患者が報告された。
- その後、 沖縄旅行をした名古屋市の10歳代男性が、4/11に麻疹と診断。その男性が受診した名古屋第2赤十字病院を推定感染場所とする麻疹発症の報告が続いた。
- **5月まで**の愛知県の麻疹報告数は**25人**。
- その後も散発し、**2018年**は**計37人**

愛知県の麻疹(2018年)

報告月別発生報告数

平成30年1月	0
平成30年2月	0
平成30年3月	1
平成30年4月	10
平成30年5月	14
平成30年6月	1
平成30年7月	0
平成30年8月	1
平成30年9月	4
平成30年10月	5
平成30年11月	1
平成30年12月	0
合計	37

愛知県の麻疹　2019年



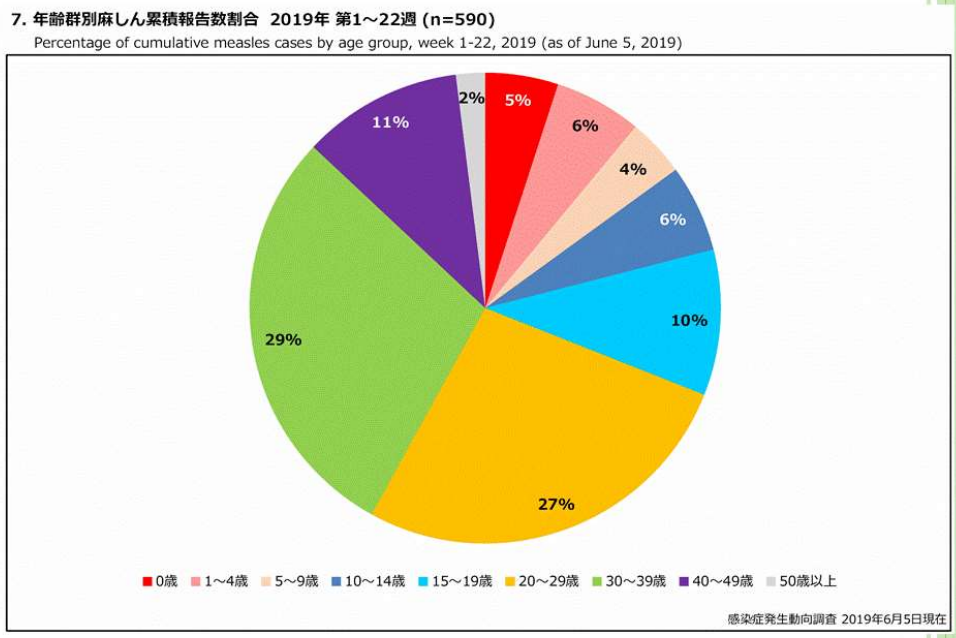
愛知県衛生研究所ホームページより

愛知県の麻疹(2019年)

報告月別発生報告数

2019年1月	14
2019年2月	11
2019年3月	5
2019年4月	5
2019年5月	3
2019年6月	1
2019年7月	
2019年8月	
2019年9月	
2019年10月	
2019年11月	
2019年12月	
合計	39

2019年　年齢別　麻疹報告数（第1～22週）



国立感染症研究所ホームページより

今（R1年6月）の
風疹の現状

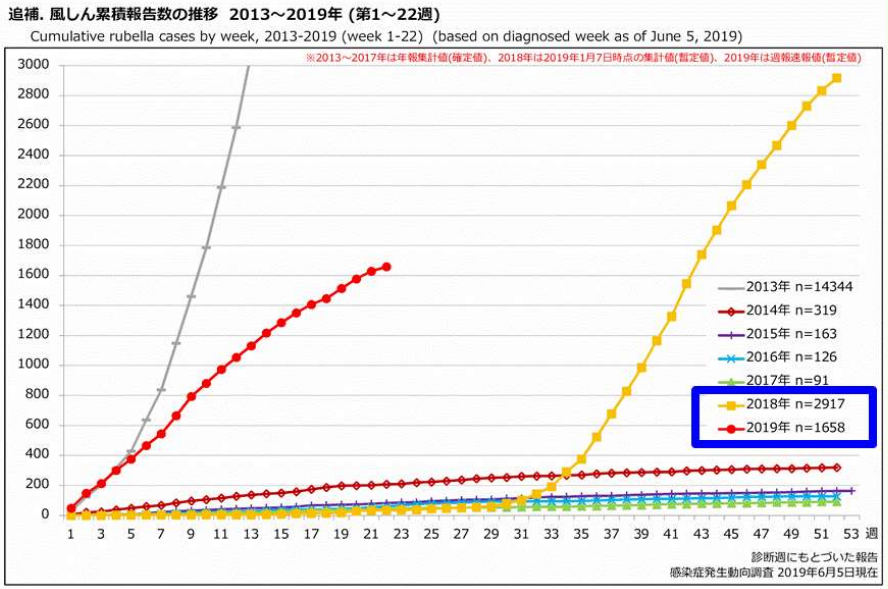
日本の風疹の現状

日本での最近の流行状況

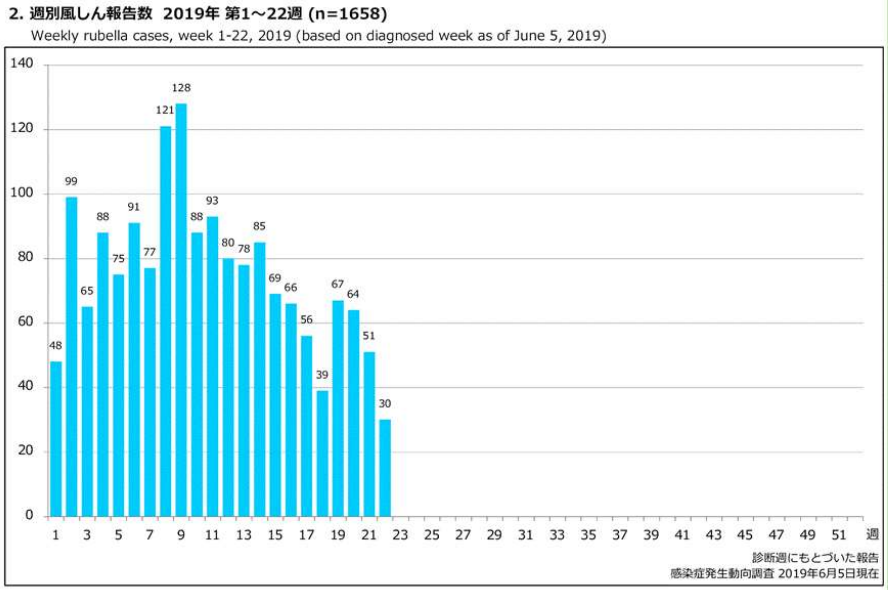
- 1990年代前半までは、5～6年ごとに大規模な全国流行がみられていた（1976、1982、1987、1992年）。
- 1994年に男女幼児が定期接種の対象になってから、大規模な全国流行は見られなくなった。
- 2004年に、推計患者数約4万人の流行があり、10人の先天性風疹症候群が報告された。
- 2011年から、海外で感染して帰国後発症する輸入例が散見されるようになり、2013年には累計14,344例の報告があり、この流行の影響で、45人の先天性風しん症候群の患者が報告された。
- その後、流行は落ち着いたものの、2018年7月下旬頃から関東地方を中心に患者数の報告が増加している。

国立感染症研究所ホームページより

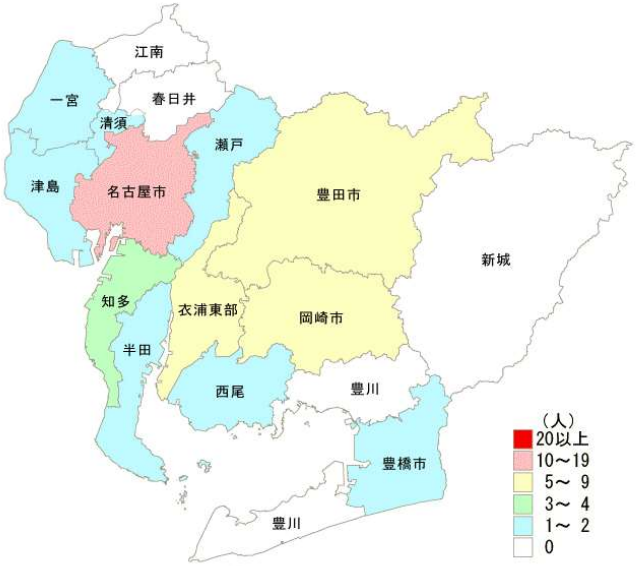
近年の風疹の報告数



2019年の風疹の報告数



愛知県の風疹　2019年



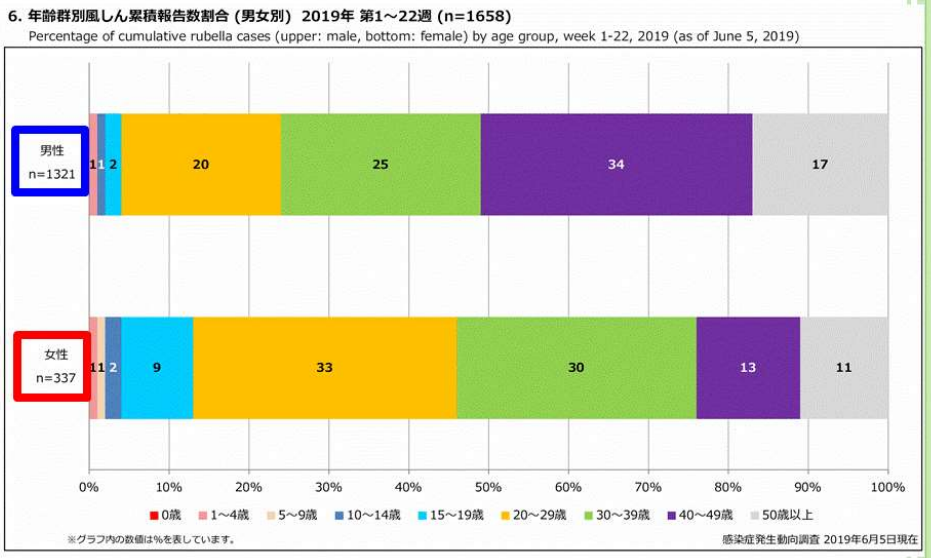
愛知県衛生研究所ホームページより

愛知県の風疹(2019年)

報告月別発生報告数

2019年1月	4
2019年2月	11
2019年3月	13
2019年4月	7
2019年5月	10
2019年6月	1
2019年7月	
2019年8月	
2019年9月	
2019年10月	
2019年11月	
2019年12月	
合計	46

2019年　年齢別　麻疹報告数（第1～22週）



国立感染症研究所ホームページより

麻疹・風疹ワクチンについて

麻疹・風疹の予防接種

現在の麻疹・風疹ワクチン

現在は、小児期に麻疹風疹(混合)ワクチンを定期接種として2回（1歳と6歳）接種を行っている。麻疹と風疹はワクチン接種にて予防できる感染症。2回接種することでほとんどの方が十分な免疫力を獲得できると言われている。

- ***麻疹ワクチンの歴史***
  1978年10月に定期接種が始まった。対象者は生後12-72ヵ月で当時は1回接種であったが、2006年6月から現在の麻疹風疹ワクチン（混合）として2回接種が開始された。

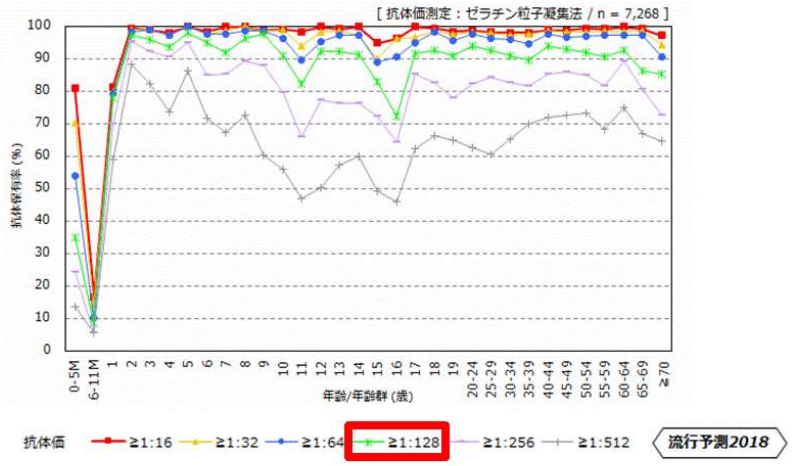
  I. 2000年4月以降に生まれた方は2回接種を受けている可能性が高い

  II. 1972年10月～2000年5月に生まれた方は1回接種の可能性が高い

  III. 1972年9月以前に生まれた方は未接種の可能性が高い

2018年 年齢別麻疹ウイルスの抗体保有率

- 麻疹あるいは修飾麻疹の発症予防の目安とされるPA抗体価1:128以上についてみると,0～1歳および11歳、15-16歳を除くすべての年齢/年齢群で85%以上の抗体保有率であった。



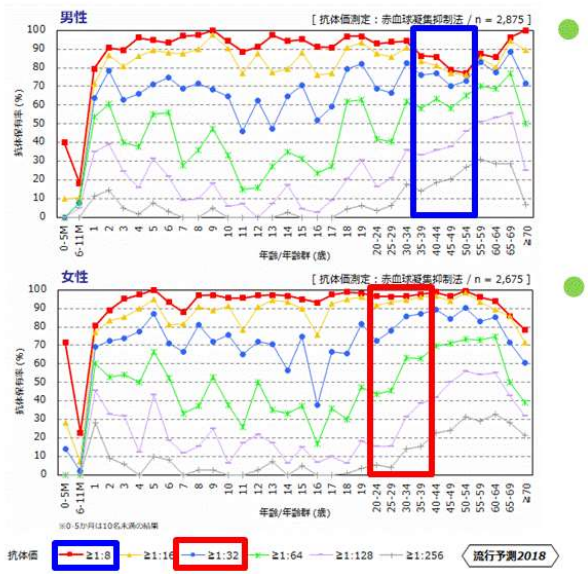
国立感染症研究所ホームページより

風疹の予防接種

風疹ワクチンの歴史

- **1977年8月（～1995年3月）**から、中学生の女子のみが風疹ワクチン定期接種の対象となり開始された。
- **1995年4月**から、その対象は生後12カ月以上～90カ月未満の男女に変更になった。また**経過措置**として、12歳以上～16歳未満の中学生男女についても接種の対象とされた。
- **2001年11月7日～2003年9月30日（経過措置）**
  1979年4月2日～1987年10月1日生まれの男女はいつでも定期接種として受けられる制度に変更。
- **2006年度**から麻疹風疹混合ワクチンが定期接種に導入された。

2018年 年齢別風疹ウイルスの抗体保有率



- 男性は
  30 代後半
  40 代
  50 代前半
  で*抗体保有率が特に低い*
- 女性は、妊娠出産年齢での十分な抗体価（32倍以上）が得られていない割合が1-3割程度存在する

国立感染症研究所ホームページより

厚生労働省の告示

風しんに関する特定感染症予防指針
（厚生労働省告示第百二十二号：平成 26 年 3 月 28 日）」

「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、令和 2 年度までに風疹の排除を達成すること」を 目標としている

対策

先天性風疹症候群の発生を防ぐためには、妊婦への感染を防止することが重要であり、**妊娠出産年齢の女性及び妊婦の周囲の者のうち感受性者を減少させる必要がある**。
また、現在の風疹の感染拡大を防止するためには、**30～50代の男性に蓄積した感受性者を早急に減少させる必要がある**。

厚生労働省の告示

厚生労働省は
2019年～2021年度末の約3年間にかけて、これまで風疹の定期接種を受ける機会がなかった
昭和37(1962)年4月2日　～
昭和54(1979)年4月1日生まれの男性
を対象に、風疹の抗体検査を前置した上で、定期接種(A類)を行うことを発表した。

厚生労働省の告示

野崎 浩光 様

風しんにおける抗体検査券および予防接種クーポン券

このクーポン券は風しんの抗体保有率が低い昭和３７年４月２日から昭和５４年４月１日までの間に生まれた男性を対象としています。このクーポン券を利用して、まず抗体検査を受けていただき、抗体検査の結果十分な量の抗体がない人は、予防接種を受けてください（抗体検査・予防接種費用無料）。
抗体検査・予防接種を受けられる医療機関等は、厚生労働省ＨＰを参照してください。
お問合せ先　岩倉市役所健康福祉部健康課保健予防グループ（岩倉市保健センター）
TEL：0587-37-3011　FAX：0587-37-3931

抗体検査

券種	抗体検査券	1
請求先	愛知県岩倉市	232289
券番号	0001585037	有効期限 2020年02月

(氏名)野崎 浩光
1232289000158503 7

予防接種予診のみ

券種	予防接種予診（予診のみ）	2
請求先	愛知県岩倉市	232289
予診費用	(税抜) 1,769 円 (消費税分を除く)	
自己負担額	(税抜) 0 円	
券番号	0001585037	有効期限 2020年02月

(氏名)野崎 浩光
2232289000158503701769

予防接種

券種	予防接種券	3
請求先	愛知県岩倉市	232289
接種費用	(税抜) 9,270 円 (消費税分を除く)	
自己負担額	(税抜) 0 円	
券番号	0001585037	有効期限 2020年02月

(氏名)野崎 浩光
3232289000158503709270

【感染症拡大防止のためにご協力ください！】
風しんの報告数が増加しています。風しんは感染者の飛まつ（唾液のしぶき）などによって他の人にうつる感染症です。風邪によく似ており、感染すると、発熱、発疹、リンパ節腫張といった症状が認められ、多くの場合は数日で治ります。心配なのは妊娠早期の妊婦が風しんにかかると、出生児が先天性風しん症候群（眼や耳、心臓に障害が出ること）になる可能性があるため、注意が必要です。風しんは咳・くしゃみで他人にうつるため、特に、学校、職場、公共交通機関などの人が集まる場所で感染が拡大する恐れがあります。

厚生労働省　風しんについて、くわしくはこちら▶ 風しん　厚生労働省　検索

- 岩倉市でも本年6月から対象となる男性に風疹の予防接種クーポンが郵送されています！
- これを医療機関に持参すると、抗体検査（血液検査）を受けたうえで、抗体がない方はワクチンを受けることができる。
- ***検査もワクチンも無料***

麻疹風疹ワクチンの注意点

- 妊婦は基本的にワクチン接種不可。必要時はかかりつけの婦人科主治医と相談して決める。
- 妊娠可能な女性は、麻疹ワクチン接種後**<u>2カ月間は避妊が必要</u>**。
- 現在、麻疹単独のワクチンは流通していないため、麻疹風疹ワクチン（MRワクチン）で代用している。
- 麻疹風疹ワクチン（MRワクチン）に関しては、風疹の抗体価を十分持っている方でも問題なく使用できる。
- MRワクチン接種は自費診療で￥8,000-10,000程度で実施されている施設が多い。

まとめ

TODAY'S SUMMARY

- 麻疹も風疹も過去の感染症ではありません。最近では海外からの輸入感染症として国内で増えています。
- 麻疹は非常に感染力が強く、抗体を有していない方は必ず感染すると考えましょう。
- 風疹は妊婦の感染で起こる先天性風疹症候群が大きな問題です。妊娠初期の感染ほど発症する頻度が高く、症状も典型的となるため、ワクチンによる予防が大切です。
- 風疹の抗体価が少ない、昭和37(1962)年4月2日　～昭和54(1979)年4月1日生まれの男性には、予防接種クーポンが郵送されています。無料で検査・ワクチンが受けられるため、是非、書類をもって医療機関を受診しましょう。